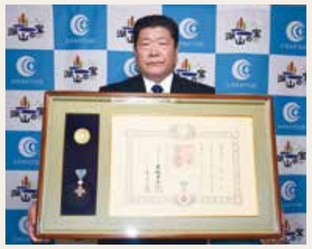
Honor the achievements and efforts of many years, the prestigious award

永年の労と功績をたたえ、栄えある受章

戸田 廣 さん
秋の褒章
黄綬褒章

水産加工品の消費拡大と霞ヶ浦北浦の水産加工業者の経営安定のため長年尽力された功労が認められ受章されました。「このたびは、予想もしていなかった素晴らしい賞をいただき感激しています。これもひとえに長い間支えてくれた周囲の方々のおかげと、本当に感謝しております」と受章の喜びを話してくれました。

小倉 征夫 さん
秋の叙勲
瑞宝小綬章

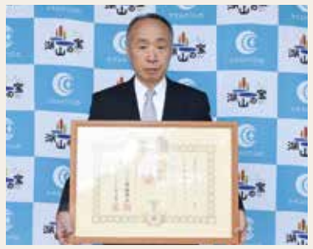


公立学校の教諭として平成18年に県立下妻養護学校長として退職されるまでの42年間、障害がある子どもたちの教育に携わり特別支援教育に尽力された功労が認められ受章されました。「支援が必要な子どもたちのために一所懸命やってきたことが認められ、光栄に思います」と受章の喜びを話してくれました。

清水 利男 さん
危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章

消防職員として平成23年に土浦市消防監(消防次長)として退職されるまでの42年間、著しく危険性の高い業務に精励し市民生活の安全確保に尽力された功労が認められ受章されました。「42年間務めることができたのも、上司や同僚、家族の支えのおかげと感謝しています」と受章の喜びを話してくれました。

野口 博 さん
危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章

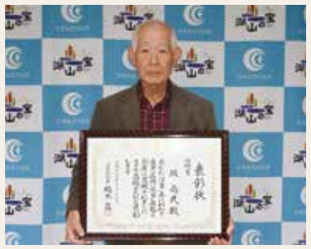


消防職員として平成22年に小美玉市消防司令長として退職されるまでの40年間、著しく危険性の高い業務に精励し市民生活の安全確保に尽力された功労が認められ受章されました。「私を支えてくれた多くの皆さまのおかげと大変感謝しております。家族には特に感謝しています」と受章の喜びを話してくれました。

圓城寺哲夫さん
危険業務従事者叙勲
瑞宝単光章

陸上自衛官として平成14年に准陸尉として退職されるまでの36年間、国民の安全と国土の保全・防衛のため尽力された功労が認められ受章されました。「このたびの叙勲は、多くの皆さまのお力添えのたまものと感謝しています。この栄誉に恥じることのないよう精進します」と受章の喜びを話してくれました。

坂 尚武 さん
産業の振興功績者
茨城県表彰



ブルーベリー生産者として多年にわたり農業に精励するとともに、加工品の開発や販路開拓に取り組み、地域農業の発展に貢献された功績が認められ受賞されました。「これからも地域振興のため、さらなるブルーベリーの販路拡大を行い、経営基盤の確立を図っていきたい」と受賞の喜びを話してくれました。

※順不同で掲載しています。

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

枯れ菊になお色のあり香りあり　小松崎緑
項上へ続く坂道木の実降る　小松崎正生
芭蕉忌の奥の細道歩きけり　榊原清志
鍋かこむ湯気のむこうの笑い声　坂部幸子
土手に這う冬たんぽぽの首みちか　桜井愛子

紫陽花俳句会

ひんやりと急ぐタンスの冬支度　飯田功
生きている今を大事に冬仕度　久保庭悦子
馴れぬ地で被災家族の冬用意　車田きみ
いとおしく鍬鎌洗い冬仕度　田能幸雄
どの風もうけて蓮田の枯れてゆく　萩原とし子

出島短歌会

ジャスミンの香をすくい取る朝の空にひろがる宴の時間　浜田留子
鳴り止まぬ砂の降る音冬のきて浜昼顔の地に低く咲く　岡田恭子
咲きました皇帝ダリヤ桃色の大空バックにああ皇帝ダイヤ　飯島ヒロエ
掃除機にコウロギさんを吸っちゃった慌てて出したらきょとんとしてた　名倉靚子
寒き夜は七夫のぬくみを思ひつつ一人わびしく眠りに入りぬ　小室貞江

投稿作品

音もなくすすき穂揺るる川土手の水面に写る昼の月影　沽野はつ子
人生を地味に生きるも楽しかり五弁の白き枇杷の花咲く　石塚清
歩み来て九十四歳われに問う失いしものと手に入れしもの　髙橋フミ
臥す我に秋運び来る友のあり黄金銀杏や菊柚子野菜　渡辺静江
父の遺した漱石全集の初版本高く売れると若きが宣う　菅谷咏子
ラマンチャの風に吹かれて丘に立つ朝陽に白き風車耀やく　中島良平
北風吹くやぼつりと灯る帰り道　扶美世

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。1月4日(月)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。

市民学芸員が語る シリーズ3

ジオパーク構想豆知識

歌人に親しまれた志筑

かすみがうら市北部に位置する「志筑」が最初に記録に登場するのは、『常陸国風土記』です。茨城郡の条文に「郡より西南に、近く河間有り。信筑の川と謂う」と記されています。また、平安時代の万葉集などの歌集に「しづくの山」「雫の森」「師付の田井」などいろいろな表記がされています。これらのことから千年も前から「しづく」の地名は存在していたようです。志筑地区北部の恋瀬川沿いには「鹿島やわら」という湿地帯があり、地層的にも保湿力が強く豊かな水田を有しています。この湿地帯の中に「井」があり、昔から神官の一族がこの「井」に〆飾りを施していました。これが「師付の田井」です。(今でも10月15日に行われています)奈良時代に国の役人として常陸国府に赴任した高橋虫麻呂の歌が万葉集にあります。この歌に「師付の田井」が登場します。歌からは、筑波山から筑波の裾野に広がる信筑川(恋瀬川)流域の広大さや晩秋の景観となる志筑の田んぼの情景に酔いしれた様子がうかがえ、国司として、国力を山の高い位置から視察する中で歌ったものと考えられます。志筑地区は古代においても人口密度が高い所でもあり大きな村落を形成していたため、歌に歌われる対象となったと思われます。その他、「師付の田井」には、説話として①日本武尊が水飲みの器を落とした井②鹿島の神が陣を張って炊事用に利用③この水は鹿島の御手洗池に通じているなどがあります。いずれも、田井が地域の方々によって特別視され、大切に守られてきた井戸である。ことがわかります。また、江戸時代に「志筑」が名所として再び広まるきっかけとなったのは、文殊院で開かれた句会です。江戸時代における歌人の世界では、「志筑」という地名は重要視されていたようです。このように志筑が名所とよばれ多くの人々が集う理由は、自然が生み出した景観でした。この景観は、いつの時代も人々の心に残り、それを歌人は歌にしていきます。

次回は「富士見塚古墳公園と柏崎窯跡群」について紹介します。(深井 征一郎)

問 郷土資料館 ☎029(896)0017